

1 2つの微分可能な関数 $y = f(u)$ と $u = g(x)$ の合成関数 $y = f(g(x))$ の導関数を $y = f(u)$, $u = g(x)$ の導関数で表したい. いま,

x の増分 Δx に対する u の増分を Δu ,

u の増分 Δu に対する y の増分を Δy

とすると, $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ は, Δu を間に挟んで

$$(*) \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\Delta y}{\Delta u} \cdot \frac{\Delta u}{\Delta x}$$

と書ける. ここで, $\Delta x \rightarrow 0$ のとき $\Delta u \rightarrow 0$ となるから,

$$\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta u \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta u} \cdot \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta u}{\Delta x} = \boxed{} \cdot \boxed{}$$

が成り立つ. これが, 合成関数の微分公式の一つの形である.

これを, ' を用いた記法で表すことを考えよう. 合成関数 $f(g(x))$ の導関数 $(f(g(x)))'$ は

$$(f(g(x)))' = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(g(x + \Delta x)) - f(g(x))}{\Delta x}$$

で定義される. ここで, x の増分 Δx に対し, u の増分 Δu は

$$\Delta u = g(x + \Delta x) - g(x)$$

と書ける. $g(x) = u$ と書き換えて, これを変形すると

$$g(x + \Delta x) = u + \Delta u$$

となり, さらに

$$\Delta y = f(g(x + \Delta x)) - f(g(x)) = f(u + \Delta u) - f(u)$$

と書くことができる. これらを用いて (*) を書き直すと

$$\frac{f(g(x + \Delta x)) - f(g(x))}{\Delta x} = \frac{f(u + \Delta u) - f(u)}{\Delta u} \cdot \frac{g(x + \Delta x) - g(x)}{\Delta x}$$

となる. ここで $\Delta x \rightarrow 0$ とすると $\Delta u \rightarrow 0$ だから,

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(g(x + \Delta x)) - f(g(x))}{\Delta x} = \lim_{\Delta u \rightarrow 0} \frac{f(u + \Delta u) - f(u)}{\Delta u} \cdot \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{g(x + \Delta x) - g(x)}{\Delta x}$$

したがって,

$$(f(g(x)))' = f'(u) \cdot \boxed{}$$

ここで, $u = g(x)$ を用いて $f'(u)$ を x で表すと $f'(u) = \boxed{}$ と書き直せる. こうして, 次の合成関数の微分公式が得られる.

$$(f(g(x)))' = \boxed{}$$

入学年度	学部	学科	組	番号	校	フリガナ
						氏名

2) $\left(f(g(h(x)))\right)'$ を求めよ.

3) 関数 $f(x)$ の逆関数 $f^{-1}(x)$ の微分公式を導きたい. 関数と逆関数は $f(f^{-1}(x)) = x$ をみたすことに注目する. そこで, $f^{-1}(x) = g(x)$ とおいて $g'(x)$ を求めることを考える.

a) $f(g(x)) = x$ の両辺を合成関数の微分法を用いて微分せよ.

b) 上で得られた式を $g'(x)$ について解け.

c) 逆関数の導関数 $(f^{-1}(x))'$ を $f^{-1}(x)$, $f'(x)$ を用いて表せ.

次の一連の問題の目的は、公式 $(x^a)' = ax^{a-1}$ が任意の有理数 a について成り立つことを証明することである。 n が整数の場合については前回すでに $(x^n)' = nx^{n-1}$ が成り立つことを示してある。

4 【 $a = 1/n$ の場合】 $f(x) = x^n$ とすると、関数 $\sqrt[n]{x}$ は、関数 $f(x)$ の逆関数である。すなわち $f^{-1}(x) = \sqrt[n]{x}$ である。

a) 問題 3 で得られた逆関数の微分公式を用いて $(\sqrt[n]{x})' = \frac{1}{n(\sqrt[n]{x})^{n-1}}$ であることを示せ。

b) a) の結果を分数指数を用いて表すことにより $(x^{\frac{1}{n}})'$ の微分公式を導け。

5 【 a が有理数の場合】 $x^{\frac{m}{n}} = (x^m)^{\frac{1}{n}}$ であることを用い、合成関数の微分公式を用いて $(x^{\frac{m}{n}})'$ の微分公式を導け。

6 次関数を変数 x で微分せよ.

a) $f(x) = (1 - 2x^2)^3$
 $f'(x) =$

b) $f(x) = \frac{1}{(4x + 3)^2}$
 $f'(x) =$

c) $f(x) = \frac{1}{(x^2 + 1)^3}$
 $f'(x) =$

d) $f(x) = \left(x^2 - \frac{1}{x}\right)^3$
 $f'(x) =$

e) $f(x) = \frac{1}{x\sqrt{x}}$
 $f'(x) =$

f) $f(x) = \sqrt{16 - x^2}$
 $f'(x) =$

g) $f(x) = \sqrt[3]{x^2 - x + 1}$
 $f'(x) =$

h) $f(x) = \frac{1}{\sqrt{1 - x^2}}$
 $f'(x) =$